

実体経済の動向

◇在庫は2か月連続の減少

(生産—微減)

10月の鉱工業生産(速報、季節調整済み(注)、前月比)は、-0.2%(船舶を除くと-0.5%)と前月増加のあとわずかながら減少した(前年同月比+2.5%)。

(注) 以下増減率は特に断わらない限り前月比または前期比(物価を除き季節調整済み)。

10月の生産を財別にみると、一般資本財、建設資材は増加したが、耐久消費財、資本財輸送機械、生産財、非耐久消費財は減少した。すなわち、一般資本財は標準モーター、電卓等の増加から、前月減少のあとかなりの増加となり、建設資材もセメント、コンクリート製品、鉄骨等の増加を主因に2か月連続の増加となった。一方、耐久消費財は白もの家電(冷蔵庫、掃除機、電子レンジ)、ラジオ、ステレオ、小型乗用車等の減少を主因に前月に続き2か月連続減少したほか、資本財輸送機械も小型乗用車用、トラック等の減少か

ら前月大幅増加のあとかなりの減少を示し、さらに非耐久消費財も合成洗剤、新聞巻取紙、金属洋食器等の減少から小幅ながら減少した。また、生産財も、鉄鋼(鉄鉄、粗鋼、線材、鋼板)、非鉄地金(銅、亜鉛、アルミ)、基礎薬品類(力性ソーダ、硫酸)、合繊糸等の減少を主因に2か月連続の減少となった。

(出荷—減少)

10月の出荷(速報)は、-1.1%(船舶を除いても-1.1%)と減少した(前年同月比+3.5%)。

10月の出荷を財別にみると、一般資本財が大幅増加となったほか、建設資材も増加したが、資本財輸送機械、耐久消費財、非耐久消費財、生産財は減少した。すなわち、一般資本財は、建設機械(トラクタ、掘削機)、ポンプ、圧縮機・送風機、電卓、電話機等の増加を主因に前月減少のあと大幅増加となり、建設資材もセメント、板ガラス、コンクリート製品等の増加から、2か月連続の増加となった。一方、資本財輸送機械は、乗用車、トラック等の減少を主因にかなりの減少となり、耐久消費財も白もの家電(冷蔵庫、電子レンジ)、ラジオ、ステレオ、小型乗用車等の減少から3か月連続の減少となった。また、生産財も、鉄鉄、

鉱工業生産の動向

(季節調整済み、特殊分類は前期(月)比増減(-)率・%)

	51年		52年		52年		
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	8月	9月	10月
鉱 指 数	128.7	129.4	130.6	129.3	129.7	130.2	129.9
工 前期(月)比	1.7	0.5	0.9	-1.0	1.3	0.4	-0.2
業 前年同期(月)比	13.8	8.5	5.0	2.1	2.9	2.8	2.5
投資財	4.0	-0.5	1.5	0.4	1.0	3.3	0.8
資本財	4.6	-0.3	2.4	2.1	1.9	3.5	0.8
同(輸送機械を除く)	6.5	0.5	0.9	1.0	3.2	-0.7	2.5
輸送機械	1.0	-2.7	5.4	5.0	-0.1	11.5	-2.5
建設資材	2.5	-1.5	-0.9	-4.4	-1.5	0.3	3.3
消費財	-0.9	2.2	2.7	-1.7	1.6	-0.6	-1.2
耐久消費財	-1.2	4.3	2.0	-3.5	3.3	-2.8	-1.8
非耐久消費財	-0.4	0.8	3.2	-0.4	0.4	0.6	-0.1
生産財	1.7	0.2	-0.7	-1.6	1.4	-1.5	-0.4

(注) 1. 通産省調べ、52年10月は速報。
2. 前年同期(月)比は原指数による。

鉱工業出荷の動向

(季節調整済み、特殊分類は前期(月)比増減(-)率・%)

	51年		52年		52年		
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	8月	9月	10月
鉱 指 数	130.7	134.4	132.7	132.6	132.8	134.0	132.5
工 前期(月)比	0.3	2.8	-1.3	-0.1	1.3	0.9	-1.1
業 前年同期(月)比	10.5	8.0	3.5	1.8	1.8	2.9	3.5
投資財	1.1	3.3	-1.4	-0.2	1.4	2.7	-0.3
資本財	0.6	5.0	-0.8	1.0	3.0	1.4	-1.0
同(輸送機械を除く)	6.2	2.5	0.1	1.3	5.7	-0.3	4.2
輸送機械	-5.8	7.5	-0.9	0.0	-1.1	3.0	-5.5
建設資材	1.5	-0.8	-3.2	-2.1	-0.4	3.4	2.3
消費財	-0.4	4.9	-0.6	0.5	0.0	1.1	-2.7
耐久消費財	0.3	7.5	-4.0	-0.2	-2.2	-0.3	-2.9
非耐久消費財	-0.4	3.2	2.1	0.2	1.5	1.8	-1.6
生産財	0.2	1.0	-1.5	-0.3	1.8	-1.1	-0.4

(注) 1. 通産省調べ、52年10月は速報。
2. 前年同期(月)比は原指数による。

アルミ圧延品、電子部品(トランジスタ、半導体集積回路、カラーテレビ用ブラウン管)、綿糸・毛糸等の減少を主因に2か月連続の減少となり、非耐久消費財も合成洗剤、画用紙、革ぐつ、万年筆等の減少から、3か月ぶりに減少となった。

(在庫—微減)

10月の生産者製品在庫(速報)は、-0.6%と前月に続き2か月連続の減少となったが、同在庫率指数(45年=100)は、出荷の減少を映じて129.1と0.7ポイントの上昇となった。財別にみると、資本財輸送機械、耐久消費財、非耐久消費財が増加した反面、一般資本財、建設資材、生産財は減少した。すなわち、資本財輸送機械は、乗用車、小型トラックの増加を主因に前月に続き大幅増加となり、耐久消費財も、白もの家電(冷蔵庫、掃除機、電子レンジ)、小型乗用車等の増加を主因に、また非耐久消費財も合成洗剤、灯油、画用紙、革ぐつ等の増加を主因に前月減少のあとそれぞれ増加した。一方、一般資本財は、建設機械(トラクタ、掘削機)、農業機械(耕うん機、稲刈機)、銅電線ケーブル、標準モーター等の減少を主因に、また、建設資材も形鋼、棒鋼、鋼管、コンクリート

管、コンクリートブロック等の減少を主因にそれぞれ2か月連続の減少となった。また、生産財も、鉄鋼(鋼板、鋼帯)、非鉄地金(銅、亜鉛、アルミ)、製紙パルプ、紡績糸等の減少から前月に続き減少した。

(設備投資—引続き低迷)

10月の一般資本財出荷(速報)は、前月微減(-0.3%)のあと+4.2%と大幅増加となったが、これは建設機械(トラクタ、掘削機)、ポンプ、圧縮機・送風機、電話機等公共投資関連品目や電卓、繊維機械等輸出が比較的順調な品目の増加によるものであり、機械プレス、金属工作機械、標準モーター等は減少した。

10月の機械受注額(船舶を除く民需、前月比)は、電力からの受注集中を主因に+24.4%(前年同月比-8.0%)と前月(-25.5%)減少のあと再び増加した。

業種別にみると、製造業からの受注は、石油、繊維、化学等が増加した反面、鉄鋼、自動車、紙パ、機械等が減少したため、-10.0%(前年同月比-18.9%)と前月(-1.5%)に続き2か月連続の減少となった。一方、非製造業(船舶を除く)からの受注は電力の著伸を主因に+54.6%(前年同月比-0.3%)と前月著減(-40.4%)のあと大幅増加となった。

この間、官公需は通信向けがかなりの増加となり、防衛庁向けも増加したが、運輸が大幅減少と

鉱工業製品在庫の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)末比増減(-)率・%)

	51年 (期末)		52年 (期末)		52年		
	12月	3月	6月	9月	8月	9月	10月
指数	167.8	167.7	174.3	172.1	174.2	172.1	171.0
前期(月)末比	4.7	0.1	3.9	-1.3	0.1	-1.2	-0.6
前年同期(月)末比	5.3	5.6	10.3	7.4	10.0	7.4	5.7
製品在庫率 指数	127.2	123.1	131.9	128.4	131.2	128.4	129.1
投資財	6.0	1.6	3.1	0.0	-0.9	-0.3	-2.9
資本財	6.3	1.4	2.5	0.3	-1.5	0.5	-2.1
同(輸送機械を除く)	5.4	2.8	1.2	-0.7	0.1	-3.8	-5.5
輸送機械	9.3	1.1	4.5	3.4	3.9	9.5	4.6
建設資財	5.4	1.4	4.5	-1.2	0.4	-1.9	-4.3
消費財	4.4	3.3	3.9	-3.6	0.2	-2.7	1.0
耐久消費財	4.1	2.3	4.6	-4.2	0.5	-2.5	1.1
非耐久消費財	4.1	4.4	3.3	-2.7	-0.7	-2.4	0.6
生産財	3.8	3.0	4.0	0.3	0.9	-0.3	-0.6

(注) 1. 通産省調べ、52年10月は速報。

2. 前年同期(月)末比は原指数による。

需要先別機械受注の推移

(季節調整済み、月平均、単位・億円)

	52年			52年		
	1~3月	4~6月	7~9月	8月	9月	10月
民需	2,829 (4.5)	2,688 (-5.0)	2,379 (-11.5)	2,661 (11.1)	2,081 (-21.8)	2,453 (17.9)
同(船舶を除く)	2,710 (1.4)	2,507 (-7.5)	2,283 (-8.9)	2,606 (13.1)	1,941 (-25.5)	2,414 (24.4)
製造業	1,161 (6.8)	1,028 (-11.5)	950 (-7.6)	965 (3.3)	951 (-1.5)	856 (-10.0)
非製造業	1,662 (0.9)	1,648 (-0.8)	1,461 (-11.3)	1,737 (17.9)	1,174 (-32.4)	1,608 (37.0)
同(船舶を除く)	1,542 (-6.2)	1,492 (-3.2)	1,410 (-5.5)	1,753 (22.4)	1,045 (-40.4)	1,615 (54.6)

(注) 経済企画庁調べ。カッコ内は前期(月)比増減(-)率(%)。

なったため、-1.2%(前年同月比+58.8%)と前月(-20.4%)に続き2か月連続の減少にとどまった。

◇10月の小売商況はほぼ前月並み

10月の全国百貨店売上高(速報)は、前月(9月+1.3%)に引続き+1.5%と小幅増加となった。

これを品目別にみると、主力の秋冬物衣料品は気温が高かった影響もあって重衣料(スーツ、コート等)を中心に伸び悩んだものの、身のまわり品(ブーツ等)、家庭用品は引続きまざまざの売行きを示した。

11月の乗用車新車登録台数(軽を除く)は、一部車種のモデルチェンジ前の買控え等もあって、前月増加(10月+9.2%)のあと、-5.5%と再び減少した。

◇商況の基調——ほぼ全面安

11月の商品市況は、セメント、生コン(公共投

資関連需要の増加)、条鋼類(市況対策の強化)など一部品目で強含むものもみられたが、鋼板類、天然糸、非鉄が続落したのをはじめ、木材、石油製品、合成樹脂等も軟調に転ずるなど、ほぼ全面安商況を呈した。

このように市況が全面安となったのは、月中ほぼ一貫して為替レートの円高化が進行するなかで、為替レートにスライドして国内建値が引下げられた(非鉄)ことや、安値輸入品の流入あるいは輸出予定玉の国内への出回り等により先行き需給が悪化することを見越して問屋、ユーザー筋に買い控えの動きが一段と強まった(鋼板類、天然糸、合成樹脂)ことが主因とみられる。このほか、季節外れの暖かさによる末端需要の不振(毛糸、灯油)、年末を控えた流通筋の安値換金売り(合板)、あるいは信用不安による取引の萎縮(生糸、厚板)

卸売物価指数の推移

(単位・%)

	ウ エ イ ト	52 年		52 年					
		4~6 月平均	7~9 月平均	9 月	10 月	11 月	11 月		
							上 旬	中 旬	下 旬
総 平 均	100.0	0.1	- 0.5	0.1	- 0.3	- 0.7	- 0.2	- 0.2	- 0.3
食 料 品	13.4	1.2	- 0.5	0.8	- 0.5	0.3	0.3	- 0.2	0
非食料農林産物	2.4	- 2.9	- 7.0	- 1.1	- 1.8	- 2.2	- 0.7	- 0.1	- 2.2
織 維 製 品	7.8	- 0.3	- 1.7	- 0.1	0.5	- 0.8	- 0.4	- 0.2	- 0.6
製 材・木 製 品	3.8	- 0.7	- 1.9	- 0.3	0.8	- 0.8	- 0.2	- 0.8	- 0.4
パルプ・紙・同製品	2.8	0.9	1.7	0.3	- 0.5	- 0.4	- 0.1	- 0.1	- 0.3
金 属 素 材	1.9	- 6.6	- 5.4	0.8	- 3.9	- 6.5	- 2.2	- 1.0	- 2.4
鉄 鋼	9.4	- 0.8	2.2	0.5	- 0.5	- 1.2	- 0.4	- 0.6	- 0.2
非 鉄 金 属	4.2	- 2.0	- 5.2	- 0.2	0.2	- 2.3	- 0.9	- 0.3	- 1.0
金 属 製 品	3.8	0.2	- 0.1	0.4	0.1	0.1	0	- 0.1	0.1
電 気 機 器	9.0	0.5	- 0.2	- 0.1	- 0.3	- 0.2	- 0.1	0	- 0.1
輸 送 用 機 器	6.8	- 0.2	1.3	0.4	- 0.5	- 0.1	- 0.2	- 0.2	0.2
一 般・精 密 機 器	10.8	0.9	0.4	0.1	- 0.1	- 0.1	0	0	- 0.1
化 学 製 品	8.8	0.1	- 0.4	- 0.1	- 0.2	- 0.5	- 0.2	- 0.3	- 0.2
石 油・石 炭・同 製 品	4.6	0.1	- 1.0	0.1	- 1.2	- 2.3	- 0.9	- 0.3	- 1.1
窯 業 製 品	3.1	0.9	0.9	0.8	1.3	0.3	- 0.1	0.2	0.3
雑 品 目	7.6	1.0	- 0.9	- 0.8	0	0	0.1	0	- 0.1
工 業 製 品	85.5	0.2	- 0.2	0	- 0.1	- 0.4	- 0.1	- 0.2	- 0.2
大 企 業 性 製 品	63.3	0.2	- 0.1	0	- 0.3	- 0.5	- 0.2	- 0.1	- 0.1
中 小 企 業 性 製 品	20.1	0.5	0	0.2	0.5	- 0.3	0	- 0.2	- 0.3
非 工 業 製 品	14.5	- 0.1	- 2.0	0.4	- 1.3	- 1.6	- 0.5	- 0.3	- 0.8

(注) 日本銀行調べ。

なども市況を一層冷えてませた要因としてみのがせない。

(卸売物価——大幅下落)

11月の卸売物価は、前月比 -0.7%と43年4月(-0.7%)以来の大幅下落を示した(前年同月比では-0.9%と47年7月<同-0.3%>以来の前年水準割れ)。

品目別にみると、公共投資関連の窯業製品(生コン、セメント)が上昇したものの、円相場的大幅上昇を映じて、石油・石炭・同製品(輸入原油)、電気機械(輸出向けテープレコーダー)、鉄鋼(輸出向け冷延薄板)、金属素材(輸入鉄鉱石)などが輸出関連品目を中心に下落幅を拡大したほか、繊維製品、製材・木製品が実需不振から、非鉄金属も海外相場安からそれぞれ反落した。

(消費者物価——11月<東京都区部、速報>は、大幅下落)

11月の消費者物価(東京都区部、速報)は、総合で-1.2%の大幅下落となった(月間下落幅として

は43年6月<-1.4%>以来の大幅低下)、(前年同月比でも+6.0%と47年12月<同+5.7%>以来の低い水準)。

これは、季節商品が季節外れの好天による野菜・果物の出荷増を映じて大幅な値下りを示したことによるが、季節商品を除く総合でも、+0.2%と小幅上昇にとどまった(前年同月比+6.8%)。

◇經常収支黒字幅は、引続き拡大

10月の国際収支は、貿易収支の黒字幅拡大から經常収支が、本年7月に次ぐ既往第2位の大幅黒字を計上したが、総合収支では、長期資本収支の流出超幅拡大が響き、324百万ドルの黒字と、前月(黒字511百万ドル)に比べ黒字幅は縮小した。

經常収支は、輸出の増加に加え輸入が小幅の伸びにとどまったことから貿易収支が前月比黒字幅を拡大(1,356百万ドル、前月黒字1,142百万ドル)したうえ、貿易外収支でも為銀海外支店の収益金回収増等から赤字幅が縮小したため1,356百万ドルと前月に引続き大幅な黒字となった。

長期資本収支は、円先高期待による対日債券投資の活発化から外国資本が再び流入超となったものの、本邦資本が、対世銀円貸付(300億円、97百万ドル)等借款供与の増加や内外金利差拡大を映じた円建外債の発行増、対外証券投資の増加等から流出超幅を拡大したため617百万ドルと、引続き流出超幅を拡大した。

一方短期資本収支は、輸出船舶の受注減引渡増等から貿易信用の決済超幅が拡大し、前月(流出超157百万ドル)に続いて373百万ドルの流出超となった。

なお、10月の貿易収支を季節調整済みでみると、輸出入とも伸び悩み、収支じりでは、

消費者物価指数の推移

		ウェイト	(単位・%)						最近月の前年同月比
			52年		52年				
			4~6月平均	7~9月平均	9月	10月	11月		
東 京	総合	100.0	2.4	0.3	1.6	0.4	*-1.2	* 6.0	
	季節商品を除く総合 (季節商品)	91.9 (8.1)	2.8 (-1.1)	0.8 (-5.2)	1.4 (4.3)	0.4 (0.2)	0.2 *(-16.2)	6.8 *(-2.8)	
	食料	40.1	0.8	0.2	1.8	0.5	*-3.3	* 4.5	
	住居	11.1	1.6	1.1	-0.1	0.8	0.3	5.4	
	光熱	4.2	0	0	0	0	0	0	
	被服 雑費	12.4 32.2	0.9 5.6	-1.1 0.9	8.1 -0.1	1.0 0	0.9 0.1	3.1 10.0	
全 国	総合	100.0	2.7	0.3	1.8	0.5	...	7.5	
	季節商品を除く総合 (季節商品)	91.7 (8.3)	2.7 (2.7)	0.9 (-6.0)	1.3 (6.3)	0.4 (1.4)	...	7.3 (9.1)	
	特殊分類								
	農水畜産物	16.3	0.3	-2.5	4.9	1.0	...	7.0	
	工業製品	46.6	2.0	0.8	2.0	0.5	...	4.6	
	うち大企業性製品	21.4	1.0	0.4	0.2	0.2	...	2.4	
	中小企業性製品	25.2	3.0	1.0	3.5	0.8	...	6.4	
サービス	33.6	5.0	1.0	0.2	0.2	...	12.1		

(注) 1. 総理府統計局調べ。
2. *は速報。

国 際 収 支

(単位・百万ドル)

	52 年			52 年			前年10月
	1～3月	4～6月	7～9月	8 月	9 月	10 月	
経常収支	893	2,183	3,366	670	1,142	1,356	637
貿易収支	2,731	3,852	4,883	1,142	1,693	1,861	1,129
輸出	17,517	19,376	20,219	6,432	6,690	6,935	6,014
輸入	14,786	15,524	15,336	5,290	4,997	5,074	4,885
貿易外収支	△ 1,751	△ 1,520	△ 1,431	△ 458	△ 524	△ 468	△ 442
移転収支	△ 87	△ 149	△ 86	△ 14	△ 27	△ 37	△ 50
長期資本収支	△ 403	△ 528	△ 1,121	△ 404	△ 531	△ 617	△ 474
本邦資本	△ 1,227	△ 721	△ 1,271	△ 449	△ 477	△ 670	△ 561
外国資本	824	193	150	45	△ 54	53	87
基礎的収支	490 (1,944)	1,655 (2,189)	2,245 (1,563)	266 (249)	611 (282)	739 (236)	163 (△ 187)
短期資本収支	48	△ 373	△ 469	91	△ 157	△ 373	△ 220
誤差脱漏	4	166	△ 36	△ 65	57	△ 42	△ 41
総合収支	542	1,488	1,740	292	511	324	△ 98
金融勘定	542	1,488	1,740	292	511	324	△ 98
外貨準備増減	393	391	480	128	101	1,709	88
その他	149	1,097	1,260	164	410	△ 1,385	△ 186
外貨準備高	16,997	17,388	17,868	17,767	17,868	19,577	16,577
為銀対外ポジション	△ 14,080	△ 13,009	△ 11,731	△ 12,230	△ 11,731	△ 12,262	△ 14,831

- (注) 1. カッコ内は貿易収支のみを季節調整した基礎的収支。
 2. 短期資本収支は金融勘定に属するものを含まない。
 3. 金融勘定の△印は純資産の減少。

輸 出 入 指 標 の 推 移

(季節調整済み、単位・百万ドル)

	国際収支ベース			通 関		輸 出	輸 出	輸入承認・
	輸 出	輸 入	貿易じり	輸 出	輸 入	信用状	認 証	届 出
52年 1～3月	6,490 (+ 12.0)	5,095 (+ 0.7)	1,395	6,480 (+ 10.2)	5,881 (+ 2.5)	4,517 (+ 9.1)	6,951 (+ 13.5)	5,976 (- 8.7)
4～6〃	6,464 (- 0.4)	5,002 (- 1.8)	1,462	6,562 (+ 1.3)	5,821 (- 1.0)	4,532 (+ 0.3)	7,025 (+ 1.1)	5,856 (- 2.0)
7～9〃	6,579 (+ 1.8)	5,178 (+ 3.5)	1,401	6,762 (+ 3.0)	5,935 (+ 2.0)	4,802 (+ 6.0)	7,192 (+ 2.4)	6,349 (+ 8.4)
52年 7月	6,678 (+ 4.2)	4,966 (- 0.6)	1,712	6,840 (+ 3.7)	5,559 (- 4.5)	4,524 (- 0.7)	7,105 (+ 2.1)	6,315 (+ 10.3)
8〃	6,596 (- 1.2)	5,471 (+ 10.2)	1,125	6,753 (- 1.3)	6,272 (+ 12.8)	4,979 (+ 10.1)	7,221 (+ 1.6)	6,377 (+ 1.0)
9〃	6,462 (- 2.0)	5,098 (- 6.8)	1,364	6,694 (- 0.9)	5,974 (- 4.7)	4,903 (- 1.5)	7,251 (+ 0.4)	6,355 (- 0.3)
10〃	6,557 (+ 1.5)	5,199 (+ 2.0)	1,358	6,734 (+ 0.6)	5,715 (- 4.3)	4,993 (+ 1.8)	7,156 (- 1.3)	6,701 (+ 5.4)

- (注) 1. 四半期計数は月平均。
 2. カッコ内は対前期(月)比増減(-)率(%)。

1,358百万ドルと前月(黒字1,364百万ドル)並みの黒字幅となった。

この間、外貨準備高は、短資の流入増から月中増加額は1,709百万ドルにのぼり、月末残高は、19,577百万ドルとなった。

(輸出——微増)

10月の輸出(国際収支ベース)は、前月比+1.5%と3か月ぶりに増加した(原計数の前年同月比では、15.3%の増加)。

品目別(通関ベース)にみると船舶(前月からのズレ込み)、自動車(中近東向けが好調)、二輪自動車(対米向け排ガス規制前の駆込み)、鉄鋼、光学機器、事務用機器、金属製品等が増加した反面テレビ、ラジオ、テープレコーダー等の弱電製品(米国、カナダ、西欧中心に減退)をはじめ、繊維製品(米国向けが減少)、重電機器、食料品も減少した。

地域別(通関ベース)には、中近東、アフリカの

他ソ連向けが好伸したが、EC向けが引続き伸び悩み、米国、東南アジア向けは、弱電製品の不振を主因に減少した。

輸出信用状接受高(季節調整済み前月比)は、10月+1.8%のあと11月+0.1%と伸び率は鈍化した。

(輸入——小幅増加)

10月の輸入(国際収支ベース)は、前月比2.0%と小幅増加にとどまり、原計数の前年同月比でも3.9%の増加と伸び悩んでいる。

品目別(通関ベース)には、原油、羊毛、とうもろこし、砂糖、小麦等は、前月の大幅減少のあと反動増となったものの、木材、石炭は横ばいで推移し、国内在庫高水準の鉄鉱石、非鉄金属をはじめ大豆、魚介類、化学製品、機械機器も減少した。

輸入承認・届出額(季節調整済み前月比)は、10月+5.4%のあと11月は、+4.7%と増加した。